令和元年度　鳥居龍蔵記念

徳島歴史文化フォーラム報告書

歴史のドアを開けよう！徳島から世界への挑戦！

2020年2月16日（日）

中学生の部 10:00～12:10
高校生の部 13:20～16:30

主催　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館　徳島県立博物館
後援　徳島県博物館協議会

目次

ごあいさつ …… 1

プログラム …… 2

中学生の部 …… 3

高校生の部 …… 8

審査委員・審査結果一覧 …… 14

ガイダンス講座「バスツアー　フィールドワークに挑戦！」 …… 15

県外研修会「重要文化財の旅 in 大阪」 …… 16

鳥居龍蔵（とりいりゅうぞう）　（1870-1953）

1870（明治３）年に現在の徳島市東船場で生まれた人類学・考古学・民族学の研究者。20歳で上京し、東京大学人類学教室の坪井正五郎に師事した。そして、日本国内はもとより、台湾、中国西南部、中国東北部、朝鮮半島、シベリア、サハリン、千島列島など、東アジア各地のさまざまな民族の言語、習慣、生活文化を調査したり、遺跡の発掘調査を行った。その膨大な調査成果の主要なものは、『鳥居龍蔵全集』全13巻にまとめられている。

ごあいさつ

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館と徳島県立博物館では、歴史・文化に関心を持つ中学生・高校生の自主研究を支援するため、平成28年度に「鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム」を創設し、令和２年２月に第４回目のフォーラムを開催しました。

鳥居龍蔵は、徳島が生んだ世界的な人類学・考古学・民族学の研究者です。学校教育はほとんど受けていませんが、20歳で単身上京し、さらに23歳で東京大学人類学教室に職を得て、研究者としての歩みを始めます。

以後、彼は、日本列島はもちろん、北はシベリア・サハリンから南は中国西南部・台湾に至るまでの東アジア各地を踏査しました。そして、諸民族の生活文化、遺跡などを調査・分析して著書や論文を多数発表し、国内外で高い評価を得ました。

幅広く活躍した鳥居龍蔵の学問的な基礎は、独学あるいは仲間との研究を重ねた十代に築かれました。彼は、読書に励み、また徳島県内の遺跡や民俗についてフィールドワークを行い、その知見をまとめて全国的な学術雑誌に投稿しました。このように、自らの探究心に基づき積極的に現地調査を行ったことが、後の飛躍につながったのです。

「鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム」は、このような鳥居龍蔵の取り組みに学び、歴史・文化に興味を持つ中学生・高校生に活動の「場」を提供するとともに、博物館が持つ「ひと」「もの」「情報」を通じて支援することで、広く世界で活躍できる「人財」の育成を目指すものです。サブタイトルに掲げた「歴史のドアを開けよう！徳島から世界への挑戦！」という言葉には、そのような思いが込められています。

２月16日開催の令和元年度のフォーラムでは、中学生５件、高校生６件の研究報告があり、76人の方々が生徒たちの発表を温かく見守ってくださいました。今回、その概要をまとめて冊子としました。学校教育の現場などでご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、この事業を実施するにあたり、ご協力いただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
館長　長谷川　賢　二
徳島県立博物館
館長　新　居　美佐子

令和元年度　鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

プログラム

日　時：令和２年２月16日(日) 10:00 ～ 16:30

会　場：文化の森 イベントホール

■中学生の部■　10:00 ～ 12:10

研究報告１　「受け継がれてきた文化と思い　－四国遍路－」
鳴門教育大学附属中学校　山中 ちさ

研究報告２　「海部郡における津波の記録　～津波記念碑と高地蔵などの調査～」
徳島文理中学校　今井 滉教、泉 悠真、加島 右京

研究報告３　「震災の歴史を振り返り、教訓とするために」
鳴門教育大学附属中学校　大和 千哲

研究報告４　「日本三祇園の１つと伝わる宍喰八坂神社の謎に迫る！～海洋民族の痕跡編～」
海陽町立海陽中学校　三浦 美貴

研究報告５　「知らなかった僕のご先祖様」
鳴門教育大学附属中学校　大西 隆生

■高校生の部■　13:20 ～ 16:30

研究報告１　「鳥居龍蔵について調べた調査結果」
徳島県立富岡東高等学校　茨木 拓行、桑原 佑成、寒川 愛斗
山本 光太郎、山田 航大

研究報告２　「徳島城の特徴」
徳島県立城南高等学校　坂野 碧斗、井関 純汰、唐川 芽育

研究報告３　「徳島藩における阿波水軍「森家」の役割」
徳島県立小松島高等学校　竹内 彩夏、島﨑 美怜

研究報告４　「方言と共に受け継がれる神山の食文化」
徳島県立城東高等学校　八木 萌々香

研究報告５　「戦後74年の記憶　～今、僕たちが知るべきこと～」
徳島県立城東高等学校　篠原 瑞稀

研究報告６　「鳴門の歴史について　－塩田にスポットをあてて－」
徳島県立鳴門渦潮高等学校　吉原 大樹

受け継がれてきた文化と思い　－四国遍路－

鳴門教育大学附属中学校
山中 ちさ

■研究の概要

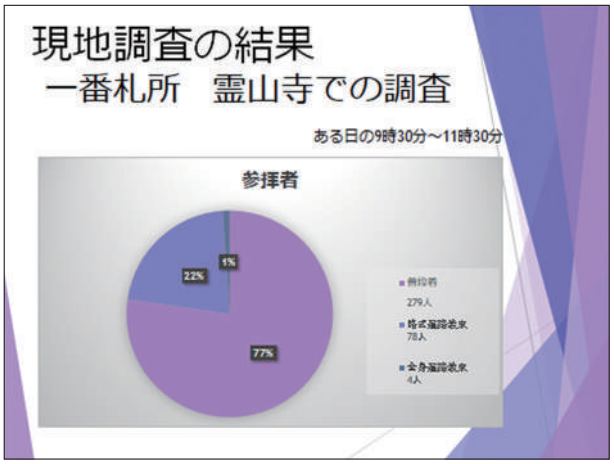
平成30年度の研究では、「四国遍路」について調べることで、徳島や四国について理解を深めた。今年度は、お遍路の衣装や道具のような「スタイル」から遍路の歴史と文化を調べることにした。お遍路の服装や持ち物を対象に、その使い方や由来について、インターネットなどを使って調べた。また、論文などにより、現代の「スタイル」になるまでの歴史を調べた。その結果として、お遍路が身につけているものには、それぞれ深い歴史があることがわかった。遍路のスタイルについては、四国遍路をはじめたと伝えられる弘法大師によるという説などがあるが、実際には近代以降のものであることがわかった。

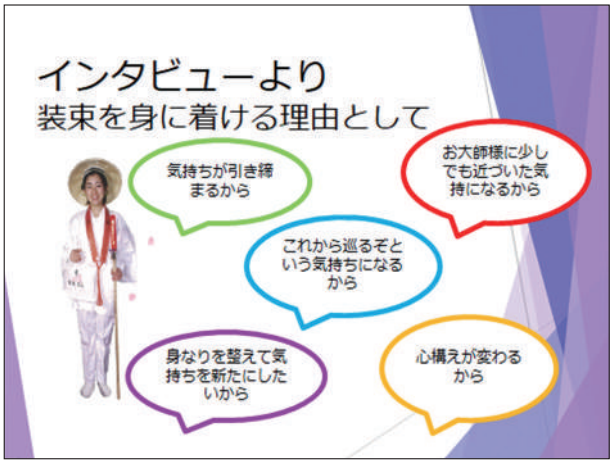
■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

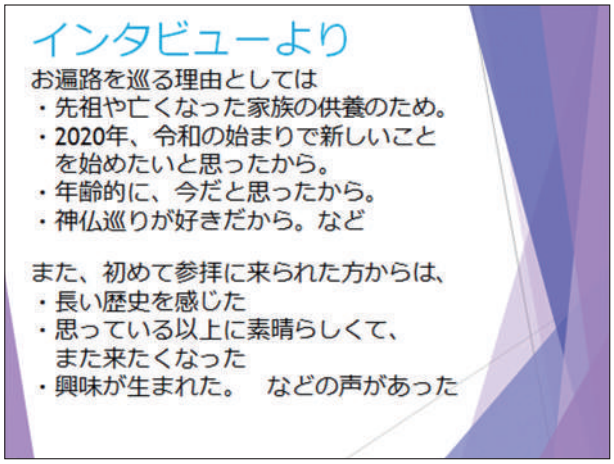
霊山寺（一番札所・鳴門市）

■利用した博物館・資料館等

徳島市立図書館







海部郡における津波の記録
～津波記念碑と高地蔵などの調査～

徳島文理中学校
今井 滉教、泉 悠真、加島 右京

■研究の概要

海部郡は、今後30年以内に起こると考えられている南海地震の津波の影響が徳島県下で最も大きいと想定されている地域である。そこで、南海地震が起こる前に、徳島県南部に残されている津波記念碑や高地蔵を調べ直すことで、被害を減らすことができると考えた。海部郡の津波記念碑や高地蔵の実地調査を行い、それぞれの位置や大きさ、碑文の内容等を記録した。また、町史なども参考にして安政・昭和の南海地震の津波の高さを比較した。さらに、徳島県の作成した津波浸水想定のハザードマップ上に津波記念碑と高地蔵の位置を記載することで、今後の南海地震の危険性を探った。この現地調査により、津波の高さを実感できた。こうした津波が今後起こるとしたら大変危険であり、迅速な避難ができるよう訓練の実施が不可欠であると痛感した。

■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

徳島県海部郡内に所在する津波記念碑と高地蔵

■利用した博物館・資料館等

海陽町立博物館、徳島県立南部防災館

震災の歴史を振り返り、教訓とするために

鳴門教育大学附属中学校
大和 千哲

■研究の概要

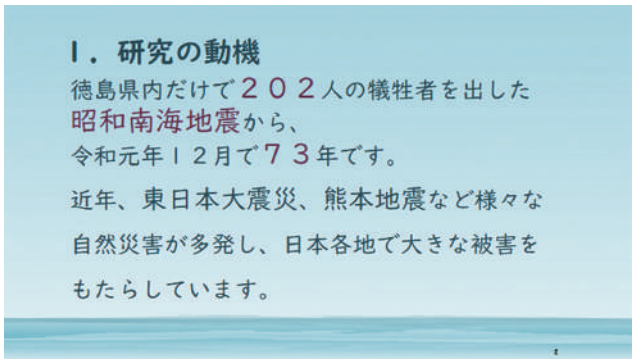
近年、東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨など、様々な自然災害が多発し、日本各地に大きな被害をもたらしている。徳島でも、近い将来南海地震が発生するといわれている。その時に人々を守るため、できることは何だろうと考え、過去の歴史を振り返り、学び取り教訓とすべきだと思った。そこで、徳島県内だけで202人の犠牲者を出した昭和南海地震の被害を記録した石碑があることを知り、それらとともに自分の住んでいる地域にある江戸時代の南海地震に関する石碑を実際に調べた。また、平成23年に起こった東日本大震災を教訓とし、内閣府や徳島県では、南海トラフ巨大地震の被害をできるだけ少なくするために、対策を立てていることも知った。以上のことから、私たち自身、どのような危険があるかを知り、家族で避難場所の確認と避難の準備をし、自分の命を大切にしなければならないことがわかった。

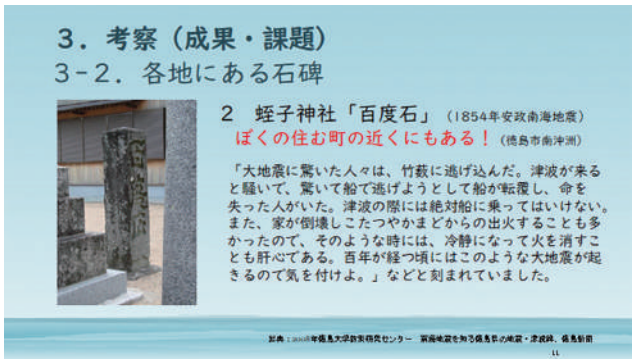
■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

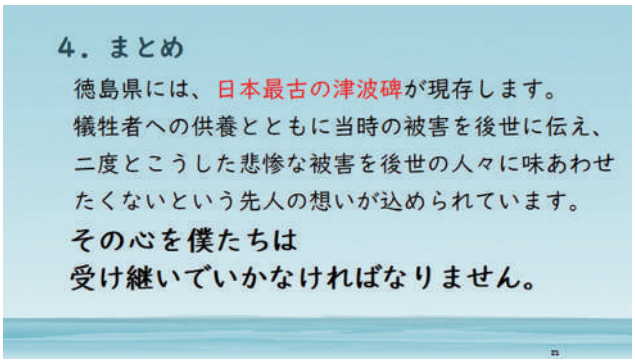
徳島県内に所在する昭和南海地震の被害を記録した石碑

■利用した博物館・資料館等

徳島県立図書館







日本三祇園の1つと伝わる宍喰八坂神社の謎に迫る！
～海洋民族の痕跡編～

海陽町立海陽中学校
三浦 美貴

■研究の概要

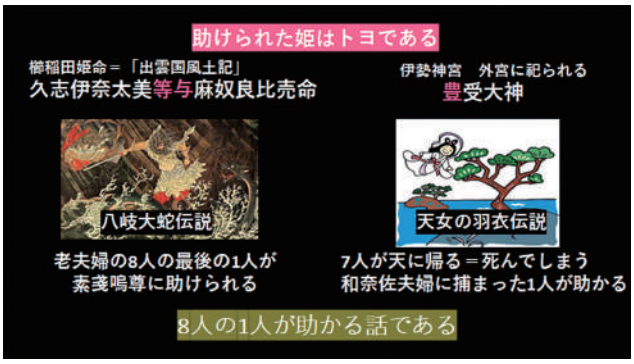
小学校６年間で海陽町の歴史について調べてきて、今まで知らなかったことが分かることが楽しくなり、より深く知りたいと思うようになった。今回は、京都の八坂神社、広島県福山市鞆浦町の沼名前神社とともに、日本三祇園社の一つと伝えられている宍喰八坂神社について調べてみた。地元の神社を調べた結果、祇園信仰の主対象である素戔嗚尊（すさのおのみこと）が祀られているのは、海陽町内で宍喰八坂神社が唯一であった。この素戔嗚尊は、自由に海を渡り各地を飛び回った海洋民族との共通点がある。また、海陽町は、弥生時代の海部芝遺跡の発掘調査により他地域から持ち込まれたものが出土したこと、また、室町時代の記録から木材の取り扱い量が多いことから、海運業で栄え、人と物が集まる場所であった。また、『万葉集』や『阿波志』などにも海洋民族に関する記述が見られ、海陽町が海洋民族の本拠地のひとつであると思った。

■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

宍喰八坂神社（海陽町）

■利用した博物館・資料館等

海陽町立博物館、大阪府立近つ飛鳥博物館



知らなかった僕のご先祖様

鳴門教育大学附属中学校
大西 隆生

■研究の概要

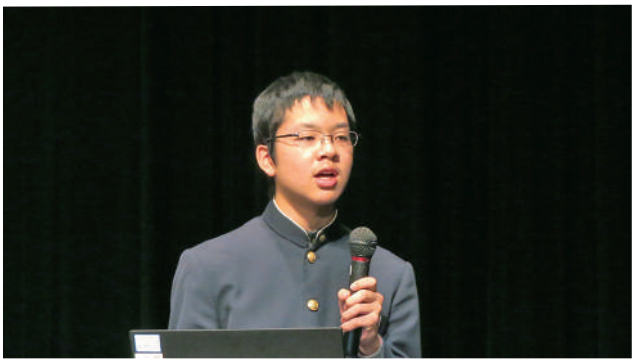
お墓参りに行った時に、墓石横の石碑に目が留まった。それには「阿波三好郡中之庄山口城主篠原諸好公末裔」と刻まれており、ご先祖様の名前と没年月日等が刻まれていたので、ぜひ調べてみたいと思い、この研究に取り組んだ。『三好町史』歴史編やインターネットなどを使い、篠原諸好公の功績や家系、また、三好郡東みよし町中庄に存在した山口城（別称 中庄城）の規模や城主、築城時期などを調べた。その結果、篠原弾正小弼諸好とその子孫の戦績や家系が分かった。また、山口城跡については、最初に築城された城跡と長曽我部元親によって攻め落とされた城跡のフィールドワークを行い現状を確認した結果、天然の地形を活かした要塞のような山城であったことがわかり、歴史を身近に感じることができた。

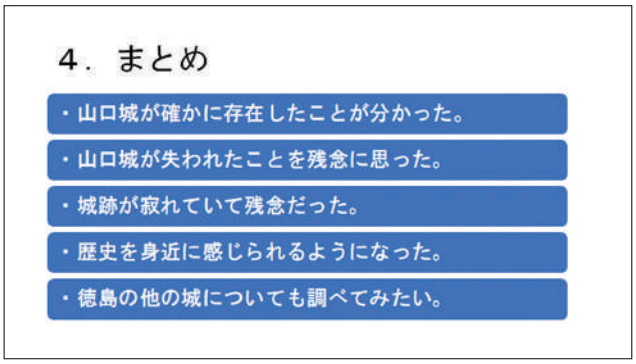
■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

山口城跡（東みよし町）

■利用した博物館・資料館等

徳島県立文書館





鳥居龍蔵について調べた調査結果

徳島県立富岡東高等学校
茨木 拓行、桑原 佑成、寒川 愛斗、山本 光太郎、山田 航大

■研究の概要

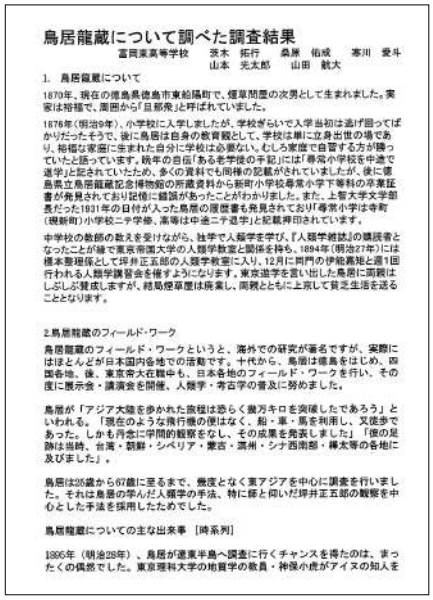
鳥居龍蔵という名前を知らなかったが、徳島県出身の偉人であると知り、興味を持ったので調べてみようと思った。メンバーで協力して、主にインターネットを活用して調べ、鳥居龍蔵が、日本国内だけではなく、東アジア全域でフィールドワークを行った人物であることがわかった。また、大正時代に鳥居龍蔵が発掘調査を行った徳島市城山貝塚でフィールドワークを初めて試みた。その結果、現地を見て肌でその雰囲気を味わうことができ、貴重な体験となったので、鳥居という人物をより身近に感じることができた。

■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

城山貝塚（徳島市）

■利用した博物館・資料館等

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館



鳥居龍蔵について調べた調査結果

富岡東高等学校　茨木　拓行　桑原　佑成　寒川　愛斗
山本　光太郎　山田　航大

1. 鳥居龍蔵について

1870年、現在の徳島県徳島市東船場町で、煙草問屋の次男として生まれました。実家は裕福で、周囲から「旦那衆」と呼ばれていました。

1876年（明治9年）、小学校に入学しましたが、学校がらいで入学当初は逃げ回ってばかりだったそうで、後に鳥居は自身の教育観として、学校は単に立身出世の場であり、裕福な家庭に生まれた自分に学校は必要ない。むしろ家庭で自習する方が勝っていたと語っています。晩年の自伝「ある老学徒の手記」には「尋常小学校を中途で退学」と記されていたため、多くの資料でも同様の記載がされていましたが、後に徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の所蔵資料から新町小学校尋常小学下等科の卒業証書が発見されており証拠に錯誤があったことがわかりました。また、上智大学文学部長だった1931年の日付が入った鳥居の履歴書も発見されており尋常小学は寺町（現新町）小学校二寺学校、高等は中途二テ退学」と記載押印されています。

中学校の教師の教えを受けながら、独学で人類学を学び、「人類学雑誌」の購読者となったことが縁で東京帝国大学の人類学教室と関係を持ち、1894年（明治27年）には標本整理係として坪井正五郎の人類学教室に入り、12月に門門の伊能嘉矩と週1回行われる人類学講習会を催すようになります。東京遊学を言い出した鳥居に両親はしぶしぶ賛成しますが、結局煙草屋は廃業し、両親とともに上京して貧乏生活を送ることとなります。

2.鳥居龍蔵のフィールド・ワーク

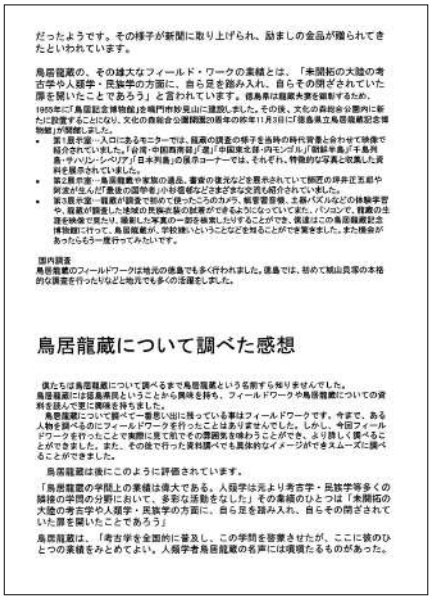
鳥居龍蔵のフィールド・ワークというと、海外での研究が著名ですが、実際にはほとんどが日本国内各地での活動です。十代から、鳥居は徳島をはじめ、四国各地、後、東京帝大在籍中も、日本各地のフィールド・ワークを行い、その度に展示会・講演会を開催、人類学・考古学の普及に努めました。

鳥居が「アジア大陸を歩かれた旅程は恐らく奥万キロを突破したであろう」といわれる。「現在のような飛行機の便はなく、船・車・馬を利用し、又徒歩であった。しかも丹念に学問的観察をなし、その成果を発表しました」「彼の足跡は当時、台湾・朝鮮・シベリア・蒙古・満州・シナ西南部・樺太等の各地に及びました」。

鳥居は35歳から67歳に至るまで、幾度となく東アジアを中心に調査を行いました。それは鳥居の学んだ人類学の手法、特に師と仰いだ坪井正五郎の観察を中心とした手法を採用したためでした。

鳥居龍蔵についての主な出来事　[時系列]

1895年（明治28年）、鳥居が遼東半島へ調査に行くチャンスを得たのは、まったくの偶然でした。東京理科大学の地質学の教員・神保小虎がアイヌの知人を



だったようです。その様子が新聞に取り上げられ、励ましの金品が贈られてきたといわれています。

鳥居龍蔵の、その雄大なフィールド・ワークの業績とは、「未開拓の大陸の考古学や人類学・民族学の方面に、自ら足を踏み入れ、自らその閉ざされていた扉を開いたことであろう」と言われています。徳島県は鳥居夫妻を顕彰するため、

1953年に「鳥居記念博物館」を鳴門市妙見山に建設しました。その後、文化の森総合公園内に新たに設置することになり、文化の森総合公園開園20周年の昨年11月3日に「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館」が開館しました。

- 第1展示室―入口にあるモニターでは、鳥居の調査の様子を当時の時代背景と合わせて映像で紹介されていました。「台湾・中国南西部」「道」「中国東北部・内モンゴル」「朝鮮半島」「千島列島・サハリン・シベリア」「日本列島」の展示コーナーでは、それぞれ、特徴的な写真と収集した資料を展示されていました。
- 第2展示室―鳥居龍蔵や家族の遺品、書斎の復元などを意味されていて師匠の坪井正五郎や同志がなんだ「最後の国学者」小杉榲邨などゆかりある交流も紹介されていました。
- 第3展示室―鳥居が調査で初めて使ったころのカメラ、帳面書籍、土器パズルなどの体験学習や、鳥居が調査した地域の民族衣装の試着ができるようになっていました。パソコンで、鳥居の生涯を映像で見たり、撮影した写真の一部を観覧したりすることができ、実は、この鳥居龍蔵記念博物館に行って、鳥居龍蔵が、学校嫌いということなどを知ることができ驚きました。また機会があったらもう一度行ってみたいです。

国内調査
鳥居龍蔵のフィールドワークは地元の徳島でも多く行われました。徳島では、初めて城山貝塚の本格的な調査を行ったりなどと地元でも多くの活躍をしました。

鳥居龍蔵について調べた感想

僕たちは鳥居龍蔵について調べるまで鳥居龍蔵という名前すら知りませんでした。
鳥居龍蔵には徳島県民ということから興味を持ち、フィールドワークや鳥居龍蔵についての資料を読んで更に興味を持ちました。
鳥居龍蔵について調べて一番思い出に残っている事はフィールドワークです。今まで、ある人物を調べるのにフィールドワークを行ったことはありませんでした。しかし、今回フィールドワークを行ったことで実際に見て肌でその雰囲気を味わうことができ、より詳しく調べることができました。また、その後で行った資料調べでも具体的なイメージができスムーズに調べることができました。

鳥居龍蔵は後にこのように評価されています。

「鳥居龍蔵の学問上の業績は偉大である。人類学は元より考古学・民族学等多くの隣接の学問の分野において、多彩な活動をなした」その業績のひとつは「未開拓の大陸の考古学や人類学・民族学の方面に、自ら足を踏み入れ、自らその閉ざされていた扉を開いたことであろう」

鳥居龍蔵は、「考古学を全国的に普及し、この学問を啓蒙させたが、ここに彼のひとつの業績をみとめてよい。人類学者鳥居龍蔵の名声には頃現たるものがあった。

徳島城の特徴

徳島県立城南高等学校
坂野 碧斗、井関 純汰、唐川 芽育

■研究の概要

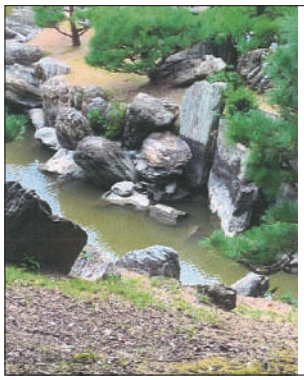
徳島の歴史に興味があったので、徳島のシンボルで、私たちにとって身近な存在でもある徳島城の歴史について、より詳しく知りたいと思い、徳島市立徳島城博物館に行き、ボランティアの話を聞いたり、徳島城跡を歩き、石垣と庭園を見て回った。今回の研究成果をまとめると、２点となった。一つは、徳島城の天守閣は本丸ではなく、東二の丸にあったことである。その理由は定かではないが、城の防備上の都合であるとか、景観バランスを整えるためであると考えられている。また、天守閣がある東二の丸より本丸の方が守りが堅いことから、より本丸を重視していたことがわかった。二つ目は、庭園には、日本一大きい石橋があること、また、庭園や堀の水は川から引いているので、潮の干満が庭園でわかることも判明した。

■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

徳島城跡（徳島市）

■利用した博物館・資料館等

徳島市立徳島城博物館



徳島藩における阿波水軍「森家」の役割

徳島県立小松島高等学校
竹内 彩夏、島﨑 美怜

■研究の概要

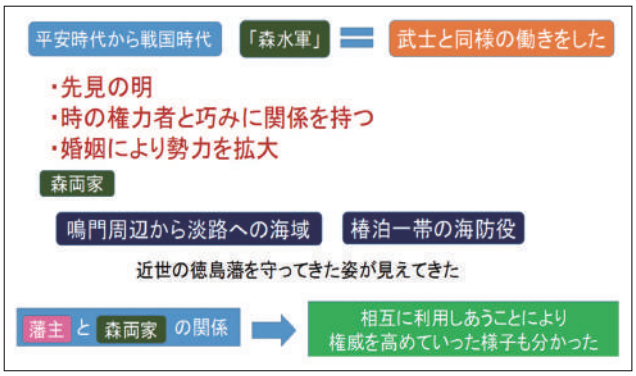
徳島市立徳島城博物館を見学し、阿波水軍の存在に興味・関心を持ったことから、阿波水軍「森家」の近世における活躍について調査･研究をした。まず、徳島城博物館で研修を受け、文献調査を行った上で、阿南市椿泊町でのフィールドワークを行った。その結果、阿波水軍「森家」は、江戸時代に海防役を務め、参勤交代で大きな役割を担ったことがわかった。「森家」の関係する椿泊の佐田神社や道明寺を見ると、今でも椿泊でその存在感の大きさを残していることがわかった。

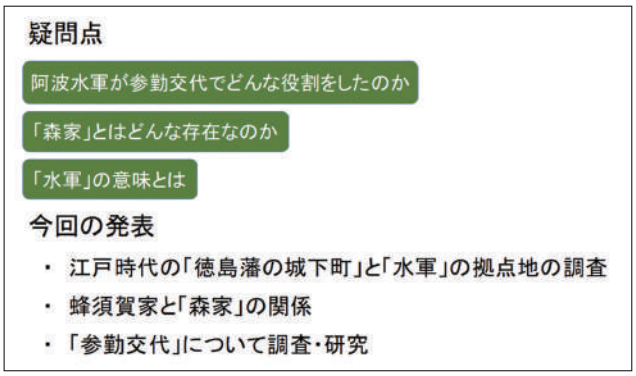
■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

阿波水軍関係遺跡（徳島市・阿南市）

■利用した博物館・資料館等

徳島市立徳島城博物館、徳島県立文書館





方言と共に受け継がれる神山の食文化

徳島県立城東高等学校
八木 萌々香

■研究の概要

歴史の学習の中で以前から人々の食生活に興味を持っていた。徳島県立博物館の展示で神山町の「山村の食膳」を見学したことがきっかけで、調べようと思った。神山町出身の祖父から、神山町について話を聞いたり、現地を訪れたりした。また、文献調査を行った。

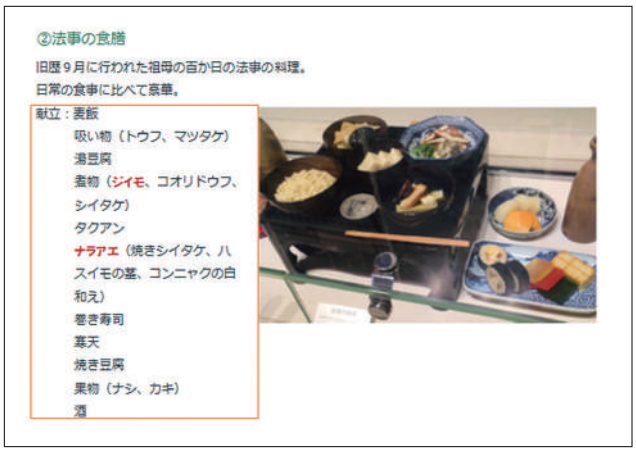
その結果、江戸時代の神山町では、気候や土地にあった食材であるキノコや山菜などをうまく利用して独特の食文化ができたことや、その食文化が祖父の代になっても方言と共に脈々と受け継がれてきたことがわかった。また、文化は記録に残りにくく、実際に祖父から話を聞いて新たにわかったことも多くあった。この研究を踏まえて、私たちの世代も受け継がれてきた方言を使うことなどにより、地域で育まれてきた文化を後世に残していくのが大切だと感じた。

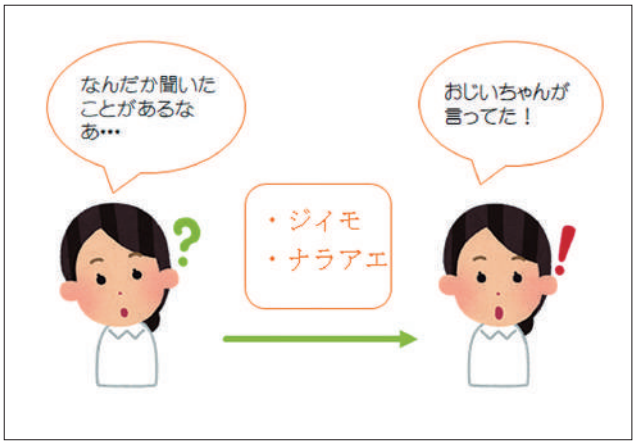
■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

神山町の食文化、方言、古文書

■利用した博物館・資料館等

徳島県立博物館、徳島県立図書館





戦後 74 年の記憶 ～今、僕たちが知るべきこと～

徳島県立城東高等学校
篠原 瑞稀

■研究の概要

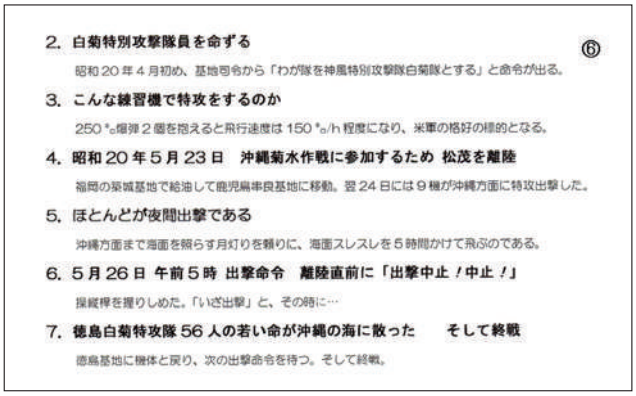
中学生の頃から、立江歴史教室の講演会に参加し、戦争体験者から直接話を聞いた。戦争体験者の高齢化が進み、戦争の記憶が風化しつつあることから、今まで参加した講演会講師の話をまとめようと思った。話を聞いた時のメモを基に、主催者から資料の提供を受けたり、インターネット、図書館の本、新聞等で詳しく調べたりした。元号が昭和から平成を経て令和となり、戦争の風化が進む中、戦争という悲惨な出来事を正しく語り継いでいかなければならないと使命感を持った。戦争体験者の話は、生々しく説得力があり、学校の教科書などからは絶対に窺い知ることのできない意外な事実を知ることができた。戦争の記憶は、残酷だからこそ永久に歴史に刻み、これから生きる僕たちの教訓にしなければならないと強く思う。

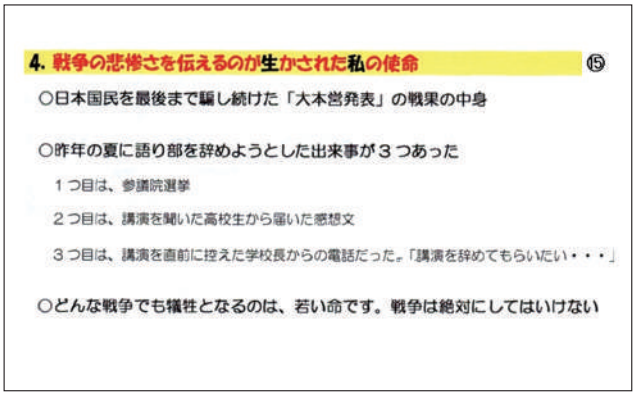
■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

立江歴史教室の講師の戦争体験

■利用した博物館・資料館等

呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）（広島県呉市）、徳島県戦没者記念館（徳島市）





鳴門の歴史について　－塩田にスポットをあてて－

徳島県立鳴門渦潮高等学校
吉原 大樹

■研究の概要

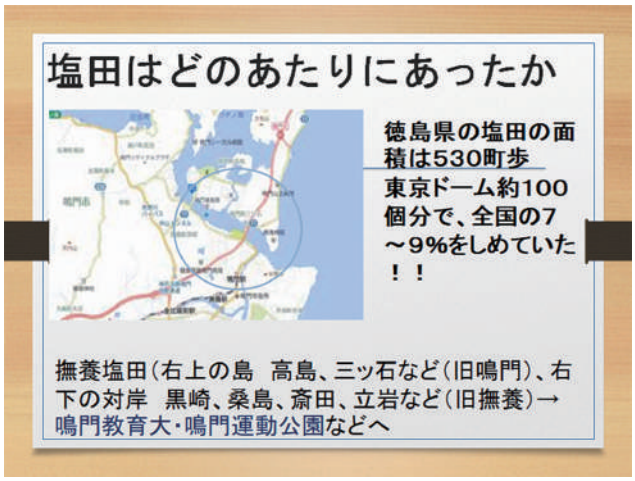
鳴門渦潮高等学校総合学科ならではの科目「産業社会と人間」での勉強や、家族との話の中で「塩田」というキーワードが出てきたので、実際に塩田がどのようなものか知りたいと思った。鳴門の製塩の歴史は、日出遺跡の出土例から古代では「藻塩焼き」、中世では「古式入浜式塩田」から「揚浜式製塩」に変わり、近世になると「入浜式製塩」が撫養で始まり、鍬島、大斎田、中斎田、大黒崎、小黒崎などに塩田が広がっていったことがわかった。しかし、塩田跡の塩田公園を訪れた際、人の姿があまりなかった。塩田跡、鳴門の塩づくりをアピールするため、今回調べた古代からの塩作りを体験できる機会や、施設があればと考えた。今後は、私自身が塩田での塩作りや、古代の塩作りにチャレンジしてみたいと考えている。

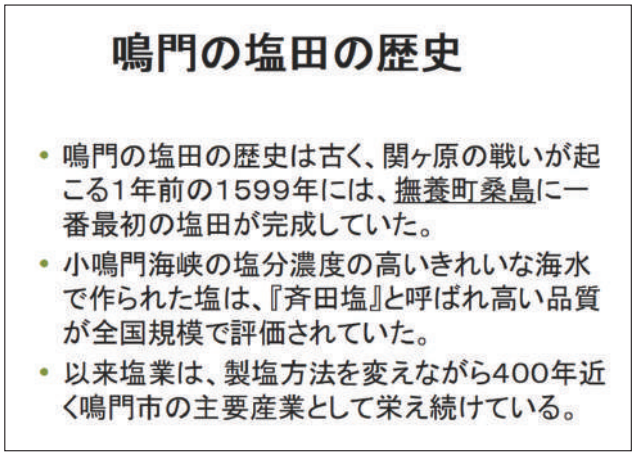
■研究対象とした地域・遺跡・文化財等

日出遺跡、福永家住宅、塩田公園（鳴門市）

■利用した博物館・資料館等

鳴門市立図書館





審査委員

徳島大学名誉教授　平井 松午 氏
徳島大学教授　中村 豊 氏
鳴門教育大学准教授　町田 哲 氏
徳島県中学校教育研究会社会部会会長　中西 俊治 氏
徳島県高等学校教育研究会地歴学会会長　藤川 卓司 氏

平井 委員

中村 委員

町田 委員

中西 委員

藤川 委員

審査結果一覧

■中学生の部■

優 秀 賞	「受け継がれてきた文化と思い ―四国遍路―」	鳴門教育大学附属中学校　山中 ちさ
	「海部郡における津波の記録 ～津波記念碑と高地蔵などの調査～」	徳島文理中学校 今井 滉教、泉 悠真、加島 右京
奨 励 賞	「震災の歴史を振り返り、教訓とするために」	鳴門教育大学附属中学校　大和 千哲
	「日本三祇園の１つと伝わる宍喰八坂神社の謎に迫る！～海洋民族の痕跡編～」	海陽町立海陽中学校　三浦 美貴
	「知らなかった僕のご先祖様」	鳴門教育大学附属中学校　大西 隆生

■高校生の部■

最優秀賞	「徳島藩における阿波水軍「森家」の役割」	徳島県立小松島高等学校 竹内 彩夏、島﨑 美怜
優 秀 賞	「方言と共に受け継がれる神山の食文化」	徳島県立城東高等学校　八木 萌々香
	「戦後74年の記憶 ～今、僕たちが知るべきこと～」	徳島県立城東高等学校　篠原 瑞稀
奨 励 賞	「徳島城の特徴」	徳島県立城南高等学校 坂野 碧斗、井関 純汰、唐川 芽育
	「鳴門の歴史について ―塩田にスポットをあてて―」	徳島県立鳴門渦潮高等学校　吉原 大樹

ガイダンス講座
「バスツアー　フィールドワークに挑戦！」

令和元年７月14日（日）開催

○自主研究のガイダンスのため、県内の文化遺産をバスで巡りました。参加者24名。

【行程】文化の森総合公園→渋野丸山古墳→弁慶の岩屋→牛岐城跡→正福寺→宝満寺→西光寺→
阿南市立阿波公方・民俗資料館→文化の森総合公園

渋野丸山古墳

弁慶の岩屋

正福寺

宝満寺

西光寺

阿南市立阿波公方・民俗資料館

県外研修会「重要文化財の旅 in 大阪」

令和元年11月17日（日）開催

○レポート提出者を対象として、大阪城や大阪歴史博物館などを巡りました。参加者22名。

【行程】文化の森総合公園→大阪城→大阪歴史博物館→難波宮跡→大阪城空堀跡→真田丸跡→真田山陸軍墓地→四天王寺→文化の森総合公園

大阪城

大阪歴史博物館

難波宮跡

難波宮　大極殿跡

真田山陸軍墓地

四天王寺

令和元年度　鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム　報告書

令和２年（2020）６月30日　発行

編集・発行：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

〒770-8070　徳島市八万町向寺山（文化の森総合公園内）

Tel. 088-668-2544　Fax. 088-668-7197

ホームページ　https://torii-museum.tokushima-ec.ed.jp/

印　　刷：グランド印刷株式会社